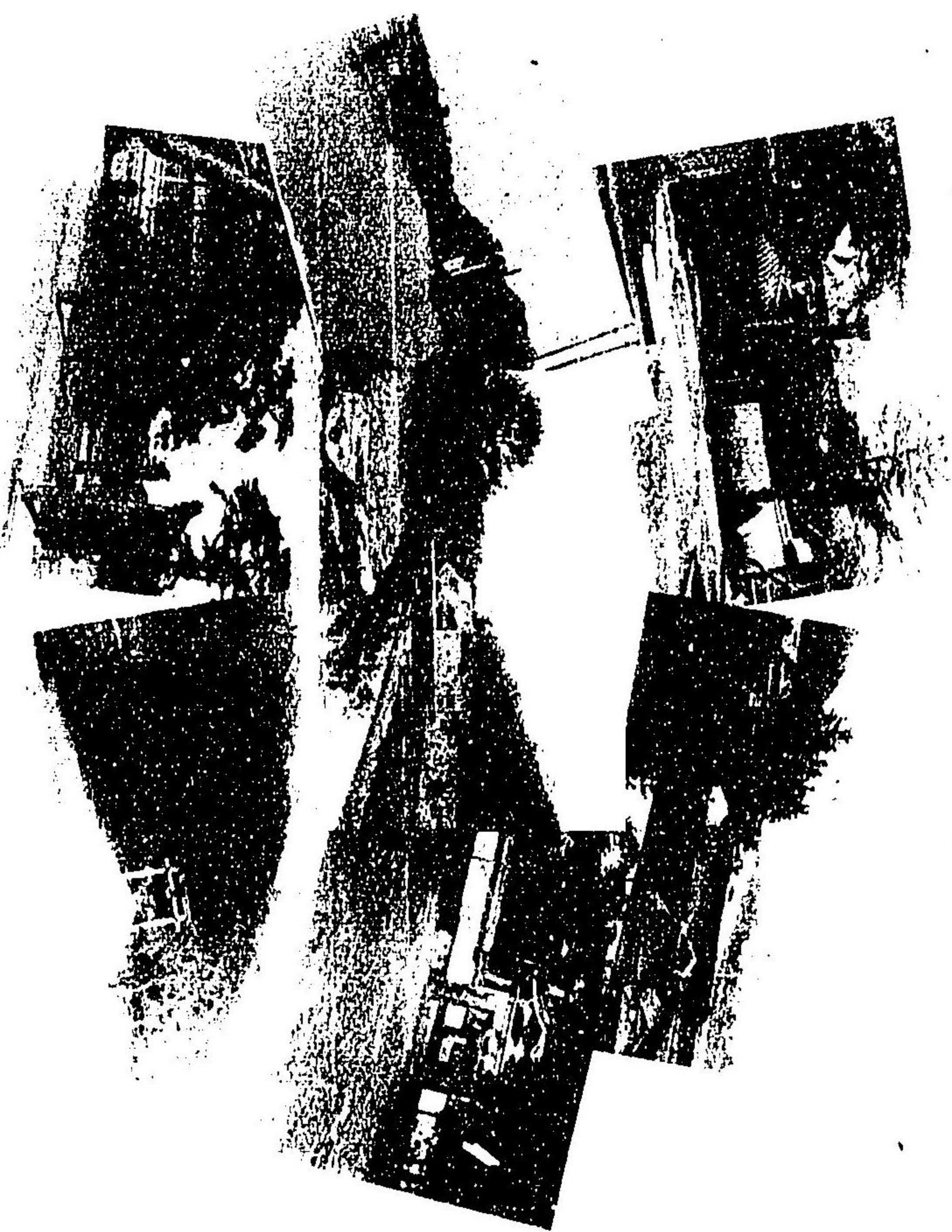




259

819



內 案 萩

萩案內目次

| | | | | |
|-----|-----|-------|---|---|
| ハロイ | ハロイ | ホニハロイ | 地 | 緒 |
| 職人戸 | 船橋建 | 津川廣沿 | 理 | 言 |
| 業口敗 | 車梁路 | 灣河産革説 | | |
| | | | | |

| | | | | |
|-----|-----|--------|-------|------|
| ロイ | ロイ | ロイ | ハロイ | 行政教育 |
| 蘭栽沿 | 夏雜米 | 農組合及團體 | 官衙公署 | |
| 培革 | 橙穀麥 | 工場 | 學校圖書館 | |
| | | 會社 | 學齡兒童 | |
| | | 陸軍兵員 | | |
| | | 海軍兵員 | | |
| | | 兵事 | | |

| | | | | |
|-----|-----------|------|-----|----|
| ハロイ | ロイ | ロイ | ハロイ | 牧畜 |
| 齒科醫 | 夏橙製造菓子 | 漁獲物 | 牛組 | |
| 醫師 | 自在釣水囊釣傳票狹 | 工業 | 乳合場 | |
| | | 漁獲物 | | |
| | | 沿獲物 | | |
| | | 陶器 | | |
| | | 經木真田 | | |
| | | 特産物 | | |
| | | | | |



萩 案 内

神佛閣統計
名所古跡

萩城址
志都岐山神社
有徳倉松
仰徳神社
菊ヶ濱
天樹院
春日神社
縣立萩中學校
郡立萩圖書館
萩八景
倉江

第二編

藥劑師
病院及病舎
辯護士
旅人宿
割烹店

玉江 櫻江 小松 上津 中津 下津 鶴江 大日照 茶臼山 金谷神社 湊八幡宮 湊松 首切地蔵 南明寺 龍藏寺 松陰神社 東光寺 長倉山 姥倉堀割 二孝子墓 越ヶ濱山 笠山

魚市場
住吉神社
弘法寺
常念寺
本願寺別院
明倫館址
阿武郡役所
好生館
萩案内をばり

萩 案 内

阿部無底編

萩 案 内

今を距る五十七年嘉永癸丑の夏、米艦浦賀に来るや、昇平の殘夢茲に破れ、天下騷然、物論胸々たり。此時に當り、各藩に率先して勤王の大義を唱へ、終始一貫、天下をして、其の藩土所を知らしめしめしは、吾が長州にして、萩町は實に此れが策源地たりし也。即ち慶長八年輝元公入國以來、文久三年に至る、二百六十年間、毛利氏累代の城市にして、防長二州統治の首腦なりき、廢藩後、舊時の盛觀なしと雖、猶戸數三千、人口一万七千あり。學校、官衙、銀行、及神社、佛閣等結構壯麗にして、海陸の收利、亦大に觀るべきものあり。今次、萩町に於て、阿武郡物産共進會開設の舉あるに當り、斯書の出づる、蓋し偶然ならざる

なり。若夫れ一帽一策一日の閑に乗せむ乎、所謂、名所舊蹟はいはすもあ
れ、古今興廢の跡、商工盛衰の理、歴々眸中に落ち來て、幾多の感興あると
共にその裨益、洵に尠少ならざるべし。
是書萩町を主とし、椿東、椿西、山田の三村を併記せるは、古來四峠内と稱し
て、密接の關係あるに因る、讀者乞ふ諒せよ。

第一編 一 地理

(一) (總説) 萩町は山口縣阿武郡の西北に位し、阿武川流の擁する所となり、
東は椿郷東分村、西は山田村、南は椿郷西分村、に對し、俱に河を隔て、
之に界す。北は渺茫たる日本海に臨み、六島其前に駢列す、見島は萩を距
ること、二十五哩、遙に天空一碧の際にあり。

山、面影山、白水山等とす。指月山は、屹として西北海岸に雄視し、八江は阿
武川の澗に在りて、其勝區を占む。萩灣は古、萩津浦、又阿胡の海といふ。指
月山より越ヶ濱半島に至る海灣にして、狐嶋、中の臺、鶴江の臺、其間に突
出し、就中、小畑港は、水深くして、風を避くべく、尤も碇泊に適す。萬葉集に
處女等が麻笥に垂れたる、續麻なす、長門の浦に、朝なぎに、滿來る潮
の、夕なぎに、依來る波の、彼潮の、いや益々に、彼浪の、いや、敷々に吾
妹子に、戀ひつ、來れば、阿胡の海の、荒磯の上に、濱菜採む、海部處女
等が、纒がせる、傾巾も光るがに、手に巻ける、玉もゆら、に、白袴の、袖
ふる見えつ、相思ふらし。

と載せ、幽齋紀行に、

あこの浦、波の高くきこえければ

小鼓のこほに調や合すらん打音高し

あこの浦波

とよめるは是なり

(口)沿革 萩は往時阿武郡波岐の郷、島、川島、堀田の庄、又た牛敷の庄とも云ひ、全く萩と確定せるは、天正永祿の交あり。後世これを當島といふは、猶當國當郡など謂ふが如し。さて、往古は、今の田町通より東南は、全く水澤にて、田園少く、東北の一部のみ人家ありて萩村といへり。これ今の古萩の地あり

椿郷西分村の濁淵、小松江は古川筋にして、川島、雁島、中島(松本)浮島などは、悉く河中の洲。渡口、船津、川屋敷(玉江)などは、川の沿岸に、江向は、大澤の對岸にありて、吹上は一の砂丘ありし等、地名に依りて其の變遷を徵すべし
萩は往時、北條上野前司、直元の居城にして、其後、吉見氏の領地ありしが、

内 案 萩

内 案 萩

慶長六年、輝元公、山口より萩に來りて、城地を相せられ、九年指月山の城郭成りて、十一月廿八日入城あり。地形宏大、東、牛水川畔、西、玉江坂、南は梓坂、北は猪熊を限り、萩と稱す。是に於て烈士の第宅、市郷の家屋、櫛比宏壯、隱然雄藩の觀を成せり。文久三年藩主敬親公、治所を山口に移され、尋で明治四年廢藩置縣となり、百事更改、地方行政の區劃、屢々廢設分合ありしが、明治廿一年、町村制施行と共に、萩町と稱するに至れり。左に追次町長の氏名を掲ぐ

中村雪樹(自明治廿二年四月至廿三年二月) 桂路祐(自同廿三年二月至廿四年一月) 山根恕(自同廿四年一月至同三十年十一月) 大多和篤義(自同三十年十一月至同三十二年十一月) 植木市之輔(自同三十二年十一月至同三十六年十一月) 内田一心(自三十六年十一月至同三十八年一月) 渡邊皆吾(自同三十八年三月至同四十一年四月) 粟屋幹(現任)

萩 案 内

(ハ) (廣袤) 萩町の周圍は、三里十町、東西長さ所は二十五丁、南北一里九丁あり。他の三村は、椿郷東分村最廣くして、南北に長く横り、山田村これに次ぎ、椿郷西分村又これに次ぐ。

(ニ) (河川) 阿武川は、本郡嘉牟村、字水井山中に發し、萩町の西に沿ひ、西濱に至り、海に注ぐ。其流域十八里二十八丁、漕舟の區域四里七丁、下流幅廣き所は百三十三間に及ぶ。この河の椿郷西分村、字大甲灣にて、分流するものを、松本川といふ。萩町の東方に沿ひて、濱崎に至り海に入る。東分村雁島にて松本川より分れ、千代倉を過ぎて、海に入るものを、新川といふ。

杣山は月の夕も霧くらし歸るさいそげ阿武の川舟 近藤芳樹

(ホ) (港灣) 萩町には濱崎の一港あり。周圍十五丁二十間、水深四丈五尺、灣夕潮、嫁泣、戎ヶ鼻の四港は東分村にあり。水深一丈五尺乃至、三丈五尺、間

圍三丁乃至十八丁ありて、咸を良港なり。

(二) 交通

(イ) (道路) 萩町を通過する假定縣道は、東田町より東分村松本を経て、地福村に通ずるものと、東田町より、東分村小畑を経て、石見國濱田に達するものと、萩町より、椿郷西分村を経て、明木を過ぎ、美禰郡大田村にも、周防國山口にも、分れて達せらる、ものと、萩より山田村を経て、遂に大津郡に達するものとあり。

(ロ) (橋梁) 萩町の周圍に架設せる橋は六つあり。雁島橋、松本大橋、中津江橋、橋本橋、玉江橋、瓊浦橋、といふ。中津江、瓊浦の二橋は、民設にして、六橋の内最長きを瓊浦とす。二百四十六間あり。

(ハ) (船車) 明治四十一年の調にては、汽船の濱崎を出入せし回数四百十回、小畑は六百七十二回ありといふ。其盛況知るべし。左に萩汽船會社

萩 案 内

乗客運賃表を掲ぐ

| 港名 | 萩 | | | 案 | | | 内 | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | 壹等 | 貳等 | 參等 | 壹等 | 貳等 | 參等 | 壹等 | 貳等 | 參等 |
| 仙崎 | 一、一五〇 | 七六〇 | 五〇〇 | 一、三〇〇 | 一、四五〇 | 九八〇 | 一、一〇〇 | 一、二〇〇 | 六六〇 |
| 下關門司 | 二、九〇〇 | 一、九〇〇 | 一、三〇〇 | 二、五〇〇 | 二、五〇〇 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 | 一、二〇〇 | |
| 多度津 | 七、〇五〇 | 四、二〇〇 | 二、六九〇 | 三、三五〇 | 三、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、二〇〇 | 一、四〇〇 | |
| 神戸 | 六、三〇〇 | 三、五〇〇 | 二、二九〇 | 四、三〇〇 | 四、三〇〇 | 二、八五〇 | 二、八五〇 | 一、八七〇 | |
| 大阪 | 六、三〇〇 | 三、七四〇 | 二、三三〇 | 四、九五〇 | 四、九五〇 | 三、二五〇 | 三、二五〇 | 二、〇八〇 | |
| 須佐 | 一、四〇〇 | 九三〇 | 六二〇 | | | | | | |

但し通行税解船賃共
出帆時日 毎日左記の場所に掲示あり

萩 案 内

一、米屋町角 光國菓子店前 一、東田町 日出組運送店前 一、橋本町橋の根 川上勇三宅前 一、平安古町角 天野商店前
 近比萩内廻りの馬車斷せず往來し、三錢均一を以て、隨意の處にて車客の上下することを得ること、せり。
 萩町附近をこめて、人力車六十三輛、乗合馬車十臺、荷馬車四十七臺、自轉車三百六輛、荷車一千二百九十四臺あり。

(三) 戸 口 (明治四十一年調)

(イ) (戸數) 四町村の総戸數は、本籍壹万八十五戸。内萩町は、六千六百六十二戸あり。現在総戸數は、六千五百三十四戸。内萩町は三千四百四十三戸なり。本籍現在ともに、椿郷西分村は、他町村に比し最少し。
 (ロ) (人口) 人口の總數は、本籍四万一千九百七十七人内萩町二万三千十

五人。現在総数は三万二千九百十七人。内萩町一万七千二百三十三人あり。
(ハ) (職業) 萩町は商工最多くして、商八百二十八戸、工四百六十一戸、農
漁の尤多きは東分村にて、農六百五十二戸、漁五百九十九戸なり

(四) 行政教育 (明治四十二年七月現在)

(イ) (官衙公署) 左表の如し

| 名 | 稱 | 所 | 在 | 名 | 稱 | 所 | 在 |
|-------|------|--------|-----|-----|-------|----|-----|
| 阿武郡 | 役所 | 萩江向村八丁 | 萩濱崎 | 郵便局 | 同 | 濱崎 | 町 |
| 萩警察 | 署 | 同 | 橋本 | 町 | 萩 | 同 | 江向村 |
| 山縣土木係 | 萩出張所 | 同 | 御許 | 町 | 執達吏 | 役場 | 同 |
| 萩稅務署 | 並萩稅關 | 同 | 東田 | 町 | 公証人 | 役場 | 同 |
| 萩郵便 | 局 | 同 | 東田 | 町 | 椿郷東分村 | 役場 | 東分村 |
| 萩區裁 | 判所 | 同 | 江向 | 村 | 椿郷西分村 | 役場 | 西分村 |
| | | | | | | | 字椿町 |

山口村役場 山田村奥玉江
(ロ) (學校圖書館) 左表の如し (明治四十二年七月現在)

| 名 | 稱 | 所 | 在 | 名 | 稱 | 所 | 在 |
|--------|------|-------|------|--------|---------|-------|-----|
| 山口縣立 | 萩中學校 | 萩町堀内 | 村 | 椿西尋常高等 | 小學校 | 椿郷西分村 | 金谷 |
| 明倫高等 | 小學校 | 同 | 江向 | 村 | 白水尋常高等 | 小學校 | 山田村 |
| 第一明倫尋常 | 小學校 | 同 | 江向 | 村 | 山田村木間尋常 | 小學校 | 同 |
| 第二明倫尋常 | 小學校 | 同 | 江向 | 村 | 私立修善 | 女學校 | 萩 |
| 椿東尋常高等 | 小學校 | 椿郷東分村 | 沼田ヶ原 | 阿武郡立 | 萩圖書館 | 萩町堀内 | 村 |
| 越ヶ濱尋常 | 小學校 | 同 | 越ヶ濱 | ヶ | | | |

(ハ) 學齡兒童 四町村中學齡兒童就學の百分比は、概して九十九人以上
に上り、特に西分村の女子、山田村の男子は、不就學者なきに至れり、是れ
本年五月調により、知らるゝ所あり。

(イ) 陸軍兵員 (五) 兵事

| 町村 | 現 | | 豫備 | | 後備 | | 補充 | | 計 |
|----------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|------|
| | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | |
| 萩町 | 八八 | 二二 | 二二 | 二五 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二〇〇〇 |
| 椿郷東分村 | 二二 | 六六 | 七 | 五 | 四 | 一八 | 四六 | 二二 | 四四五 |
| 椿郷西分村 | 二五 | 六一 | 四 | 五 | 三 | 九 | 二五 | 七二 | 一八一 |
| 山田村 | 四 | 一 | 三 | 二 | 一 | 五 | 二五 | 一五 | 二五三 |
| (ロ) 海軍兵員 | | | | | | | | | |

明治四十一年十二月現在

萩 案 内

| 町村 | 現 | | 豫備 | | 後備 | | 補充 | | 計 |
|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | 將校 | 下士卒 | |
| 萩町 | 二五 | 一三 | 一 | 四 | 一 | 二 | 五 | 七 | 七一 |
| 椿郷東分村 | 一三 | 一〇 | 二 | 四 | 一 | 一 | 二 | 二 | 五九 |
| 椿郷西分村 | 四 | 三 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二二 |
| 山田村 | 三 | 一 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二二 |

明治四十二年七月現在

(六) 一會社

| 種類 | 名稱 | 設立年月日 | 資本金 | 總額 | 積立金 | 當命支店 |
|----|--------|----------|-----|---------|-------|------|
| 株式 | 萩銀行 | 明治三十年三月 | 十萬圓 | 十萬圓 | 二千五百圓 | 一割 |
| 全 | 防長貯蓄銀行 | 明治三十二年八月 | 五萬圓 | 一萬二千五百圓 | 三千圓 | 一割六分 |

內 案 萩

| | | | | | | | |
|----|---------|----------|-----|-------|--------|------|---|
| 株式 | 萩濱船會社 | 明治三十三年三月 | 六萬圓 | 一萬五千圓 | 千三百十二圓 | 一割 | 1 |
| 全 | 秋吳服株式會社 | 明治三十七年五月 | 十萬圓 | 三萬三千圓 | 二千三百圓 | 五朱 | 2 |
| 全 | 萩響海館 | 明治三十七年一月 | 一萬圓 | 一萬圓 | 千六百圓 | 一割二分 | 1 |
| 合資 | 萩魚市場 | 明治三十一年二月 | 五萬圓 | 五萬圓 | 三百九十六圓 | 七分強 | 1 |
| 全 | 萩土原精米所 | 明治三十六年三月 | 三千圓 | 三千圓 | 百三十七圓 | 一割 | 1 |

(六) 二 工場

明治四十二年七月現在

| | | | | | | | | |
|-------|----|------|----------|-----|-------|------|-----|-----|
| 名 稱 | 所在 | 持 主 | 創立年月 | 製 品 | 職 工 | 原動機 | 機關數 | 馬 力 |
| 阿武郡麥稈 | 萩 | 齊藤三重 | 明治三十六年八月 | 木田 | 百六十一人 | 1 | 1 | 1 |
| 模範工場 | 萩 | 齊藤三重 | 明治三十七年一月 | 印刷版 | 二十人 | 石油發動 | 1 | 三五 |
| 萩響海館 | 全 | 株式會社 | 明治三十七年一月 | 印刷版 | 二十人 | 石油發動 | 1 | 三五 |

內 案 萩

| | | | | | | | | |
|-------|-----|-----------------------|----------|----|------|----|---|-----|
| 中村製絲 | 全 | 中村三藏 | 明治二十八年六月 | 生絲 | 四十人 | 汽機 | 1 | 二、五 |
| 椿東製絲場 | 東分村 | 大谷吉藏 石井勘九郎 原田吉平 | 明治三十五年七月 | 全 | 四十二人 | 1 | 1 | 三、六 |

(六) 三 組合及團體

明治四十二年現在

| | | | | | |
|----|--------|-------|-----------|------|------|
| 名 | 稱事務所位置 | 設立年月 | 出資一口ノ金額 | 出資口數 | 組合員數 |
| 有限 | 萩信用組合 | 御許町 | 明治三十四年四月 | 五圓 | 一四四〇 |
| 無限 | 椿西信用組合 | 椿郷西分村 | 明治三十九年十二月 | 拾圓 | 二〇七 |
| 有限 | 椿東信用組合 | 椿郷東分村 | 明治四十年十月 | 五圓 | 七三一 |
| 有限 | 萩購買組合 | 江向村 | 明治四十年十二月 | 五圓 | 二〇七 |

防長米同業組支部全下五間町 明治三十一年五月
 阿武郡農會全 上 明治三十六年六月

(七) 農産物概況

| 町村 | (イ) 米麥 左表の如し | | 明治四十一年中 | |
|-------|--------------|--------|----------|--------|
| | 作付 | 反別 | 收 | 獲 |
| 萩町 | 米 五七七反 | 麥 四五五反 | 米 一、八一三石 | 麥 七五〇石 |
| 椿郷東分村 | 二五六四 | 一、〇〇〇 | 七、〇九五 | 一、八〇〇 |
| 椿郷西分村 | 一六〇〇 | 五三〇 | 四、七〇三 | 八一六 |

内 案 萩

山田村 二〇八四 一〇四〇 三二九八 一三二一
 計 六八二五 三〇二五 一六九〇九 四六七七
 (ロ) 雜穀 大豆最多くして、四町村の總收穫三百〇一石、粟これに次ぎて二百二十石、其他は僅々のみ

(八) 夏橙一名夏密柑

夏橙は萩地主要の物産にして、其の豊凶は、直に土地の盛衰に影響す而して今や、本場夏密柑の聲譽は、到る處、市場に隆々たるに至れり、豈に盛からず哉、左に沿革、栽培の實況を記す。
 (イ) 沿革 起原詳ならず、維新前迄は、果樹散在せしむ、人咸其の成熟の期を知らず。冬間猶は酸苦喰ふに耐へざるを以て、空しく兒童の把玩に委せしが、明治初年、偶々夏期に際して、之を喫せしに、意外の美味を感じ

たり。爾來明治六七年の交、漸次栽植、遂に今日の盛況に達せり。
 (口)栽培 沖積砂土、礫土、或は山林開墾地の如き、粘土に至るまで、皆能く
 成育す、殊に肥沃の砂壤は、尤も之に適せり。尙土地高燥にして、向陽温暖
 なること必要あり、さて三年の苗を植うれば、三年目、即ち接木より五年
 後に結實す、結實の尤多きは、移植後十年にして、一樹平均百個あり。以後
 此の状態を持續す。熟期は四月下旬にして、五六月の交、最も美味ありと
 す。八月に至れば味乃ち劣る。

明治四十一年の調査に係る、夏橙樹數産額等の實況、左表の如し。

| 町 村 | 反 別 | | 樹 數 | 個 | 數 | 金 額 | 圓 | 國 主 數 |
|-------|--------|----|-------|----|---------|--------|------|-------|
| | 丁 | 反畝 | | | | | | |
| 萩 町 | 一七二〇三〇 | 一 | 二二二五 | 三三 | 二〇二九七〇 | 一〇二二五二 | 一四五四 | 一四五四 |
| 椿郷東分村 | 八八七四二〇 | 一 | 五八五九〇 | 一 | 四五二五二〇〇 | 二七〇九 | 四三五 | 四三五 |

内 案 萩

| | | | | | |
|-------|--------|--------|---------|--------|-------|
| 椿郷西分村 | 九七八八一四 | 五五二三五 | 六六一五二〇 | 五四三八八 | 四五〇 |
| 山 田 村 | 四八一七二八 | 三五九五 | 二五六九一〇 | 一七九八四 | 二九六 |
| 計 | 四〇五八四〇 | 三三七一四三 | 三三二五七二九 | 二〇二七二五 | 二六三三五 |

(附記)夏橙價額は、毎年、三十五六萬圓に達すれども、昨年度は風害の爲め、約四割を減せり。

(九) 蒔

明治四十一年の調査によれば、四町村の總收量は、春蠶百三十四石、此價四千五十二圓。夏蠶三十一石一斗三升、此價千三百三十九圓、秋蠶三十二石三斗四升五合、此價九百九十二圓なり。

(十) 牧蓄

(イ) 牧場 越ヶ濱に笠山牧場あり。國重政亮氏の所有にして、場の廣さ八

十三丁、牛百頭、資本金壹万圓ありといふ。
（ロ）組合 山田村報國畜産組合は、牝牛五十七頭を有すといふ。
（ハ）牛乳 四町村牛乳搾高総量は、四十一年の調によれば、百八石にして、その價格三千九百十五圓ありといふ。

（七）漁業

（イ）沿革 鶴江及玉江は、實に吾國遠洋漁業の嚆矢たり。居民敢爲にして、近海に侷促たるを欲せず、進で漁船を改良し、風濤万里、遠く韓海に出漁せり。従て近來家屋を宏壯にし、共同貯金を營む等、その精力復た昔日の比に非らず。加之、遠近聘を厚して、漁船漁具の傳習を乞ひ、全國漁業界、靡然として之に倣ふ。左に其沿革の梗概を掲ぐ。
鶴江浦 寛政二年、浦大船頭小右衛門といふ人、近海漁業の頼むべからざるを悟り、見島近海を試み、有利なりしより、出漁者漸次多きを加ふるに

内 案 萩

至りぬ。文化十四年、船頭七右衛門、又右衛門の兩人、更に奮て壹岐近海に出漁し、好果を得たり。是れ遠洋漁業の端緒なり。文政元年漁船を改良し、同志を誘ひ、十七艘を出して、大漁獲あり。是に於て、永年出漁の方針を定め、文政十二年より、對洲に遠征す。天保元年正月、對馬近海出漁中、暴風雨の爲め、韓國國島（一名キク島）に漂着、この時又老額の収利あり。之を韓海出漁の始とす。此年七月一同歸浦、報告の結果、舉て遠洋漁業に従事することとなり、爾來漁域を擴張し、以て今日の盛況を呈せり。
玉江浦 文化二年、船頭平右衛門といふ人、率先漁船を改良し、四人乗組にて、見島近海に出漁す。之を出稼の嚆矢とす。爾來經驗を累ぬると共に、漸次其數を増加す。文政五年二月、船頭龜吉外三名乗組、見島沖に於て漁業中暴風の爲め、壹岐國に漂着し、勝木村に達し、試漁して大利を得、之を遠洋漁業の端緒とす。文政六年、更に漁船を改良し、二十五艘増備せり、再び

内 案 萩

もいふ(小畑焼)前小畑にて製造す、延喜式に記せる埴田といふものは、り。土質極めて好く、古來陶器を造れり。天長山、泉流山等の諸窯ありて、酒瓶、食器等専ら實用的の製作を爲し、販路極めて廣し。

明治四十一年中

| 主産地 | 戸數 | 職工 | 價額 |
|-----|----|----|--------|
| 松本 | 二 | 六 | 一、五六〇圓 |
| 小畑 | 四 | 四九 | 一〇、六四〇 |
| 計 | 六 | 五五 | 一一、二〇〇 |

(ロ) 經木眞田 萩町にては職工百六十一人、一ヶ年に三千五百九十五反を作りて、その價額一千十二圓といふ。東分村西分村にも、その業行はるれども、萩町に及ばず。山田村にはこれあり。

(三) 特産物

萩 案 内

(イ) 夏橙製菓子 明治廿二年頃より、夏橙の外皮を刻み、砂糖煮となしたるものにて、芳香佳味、茶用として、尤妙あり。販路は下關、神戸、京都、北海道、臺灣、韓國等にして、年額五六千圓に達す。この外、夏橙を基として、製せるもの長州餡、橙羊羹、ジャム等あり。殊に近來、萩瓦町吉村風月堂創案の「袖の香」は、確に一頭地を抽けり。

(ロ) 蒲鉾 萩地名産の一にして、耐久美味あること、全國第一の評あり。

(ハ) 雲丹 玉江浦尤多額を産し、芳香美味、酒党の歡迎する所あり。

(ニ) 自在鈎、氷囊釣、傳票挾 自在鈎は、ランプ、瓦斯燈、電燈、其他懸垂用具を自在に上下し、氷囊釣は、氷囊其他、輕き器物を適宜に吊垂し、傳票挾は、紙類を安全に保持す。いづれも特許にて、萩熊谷町坂本商店の發賣とす。

(四) 病院其他統計

明治四十二年九月現在

萩 案 内

| | | | | | |
|--------|----|-----|-----|-----|----|
| 町村傳染病院 | 萩町 | 東分村 | 西分村 | 山田村 | 計 |
| 隔離病舎 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 醫師 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 齒科醫師 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 藥劑師 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 産婆 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 看護婦 | 4 | 4 | 4 | 4 | 16 |
| 營業人 | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| 衛生組合 | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |

(五) 旅館及割烹店

旅館は、萩、唐樋町大阪屋、好日館、五間町吉山を一流とし、西田町中村、武居、御許町國吉、阿武、濱崎町刀禰等之れに次ぎ、割烹店は唐樋町高大亭、橋本町富月亭、上五間町金子等著名なり

第一編終

第二編 (一) 神社佛閣統計

神社

明治四十二年七月現在

萩 案 内

| | | | | | |
|-------|----|-------|-------|-----|----|
| 町村名 | 萩町 | 椿郷東分村 | 椿郷西分村 | 山田村 | 計 |
| 縣社 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 無格社 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 官祭招懸社 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 計 | 20 | 6 | 2 | 5 | 33 |

佛閣

明治四十二年七月現在

| | | | | | |
|-----|----|-------|-------|-----|----|
| 町村名 | 町村 | 椿郷東分村 | 椿郷西分村 | 山田村 | 計 |
| 佛閣 | 4 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 濟曹 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 洞黃 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 樂具 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 宗日 | 3 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 蓮 | 3 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 計 | 40 | 9 | 4 | 4 | 57 |

二十七

二十六

萩 案 内

| | | | | |
|-------|---|---|----|----|
| 椿郷西分村 | 一 | 二 | 三 | 六 |
| 山田村 | 一 | 二 | 一 | 三 |
| 計 | 二 | 四 | 一〇 | 五八 |

(二) 名所古蹟

○萩城趾 萩町の西北指月山下にあり。北條直元の居處即是にして、輝元公これを修せられしなり。城は三面海に臨み、五重の天主閣、二十餘の櫓、内濠幅二十間、外濠幅十六間、深各七八尺、封建の世にありても要害第一の稱あり。維新後、城塞廢毀、只々壁と濠とを殘すのみ。現今境内に公園を設け、花木四時の觀を絶たず。殊に櫻花爛熳の候にありては燕遊の士女狂せむ許り。實に萩町隨一の行樂地たり。

會栽櫻樹一千株、華表柱頭霞施朱、花亦應知遺澤、春風吹遍舊城區。

兒玉雪堂

萩 案 内

○志都岐山神社 舊牙城内にありて、縣社なり。明治十二年の創建にして、毛利元就、隆元、輝元、敬親、元徳の五公を祀る。有栖川賴仁親王、三條實美公揮毫の額あり。社殿は山を負ひ、壯嚴潔麗、池塘泉石の美と相俟て、萩地有數の勝區たり。

志都岐山神をいはひて常磐木もときはかきはに茂り行くらむ 忠愛公

○有倉松 舊城第二郭内にあり。築城の際、有倉氏邸内にありし物なり。爾來幾星霜幹周六拱、力四五十歩に涉り、城内唯一の偉觀たりしに、維新後竟に枯死したり。現時根側に遺種あり。亭々として舊觀を俛ばしむ。

○仰徳神社址 指月山の東麓にありて、萩城の鎮守社なり。昔は土地神社といひて、六國史にも見えたり。寶曆中、江家の始祖、並に中興烈祖を合せ祀り。天保元年、仰徳大明神の勅額を賜はる。維新後、毛利氏々神宮崎八幡宮を合併し、尋で志都岐山神社と合祀す。往時祭式尤も壯嚴を極め、連歌

萩

案

内

郷樂等観るべきものありしと云ふ。
 ○菊ヶ濱 萩町の北、萩灣に臨める海濱にして、指月山東麓より、鶴江臺
 へ達す。遙く笠山及六島を望み、煙波縹渺、白沙青松、尤も海水浴に適せり
 海岸一帶の砂丘は、そのかみ鎖港懷夷の説、天下を風靡せし際、滿城の士
 女を盡して構築せし所なり。

遠近の相島見島行かへりかもめ妻よぶ浪の夕くれ

近藤芳樹

○天樹院址 堀内村大下馬にあり。大照院、及洞春寺と共に、萩地臨濟三院
 の一にして、防長二洲同派の臣臂たり。寛永年間、輝元公の菩提所となる。
 其後再三炎上、元治慶應の際、藩論分裂し、敬親公父子、俗論党の爲め當寺
 に幽閉せられしことあり。現今墳墓のみ存し、古松薛羅長へに英魁を留
 めぬ。

○春日神社 堀内大馬場にありて、縣社なり。萩町の總鎮守とす。大同年

中大和、春日社を勸請し、初め江向の鎮座なりしが、慶長中今の地に移す。
 結構壯偉、祭禮殊に嚴肅なりしに、今や社殿荒廢し、古制亦漸く衰ふ。

○縣立萩中學校 初め毛利家の創設に係り、巴城學舎と稱して、江向村、
 明倫館址にありしが、後明治十一年、山口中學校分校となる。爾來變遷の
 後、明治三十二年九月、山口縣萩中學校と改め、現在新築校舎に移る。但し
 その地所建物は、地方有志の寄附する所なり。校長は雨谷善太郎、塚本又
 三郎、羽石重雄三氏を経て、現任村上氏に及べり。生徒數は四百人、卒業生
 の現狀、左表の如し。

卒業生一覽 自三十四年 至四十年 七年間

| | | | | | | | | |
|------|------|--------|----|------|----|----|----|------|
| 官立大學 | 私立大學 | 高等專門學校 | 軍 | 人官公吏 | 教員 | 僧侶 | 醫師 | 師會社員 |
| 一五人 | 三三三 | 五六 | 五八 | 二七 | 二五 | 一 | 九 | 二二 |

農 商文 學 在 京在 郷補習科死 亡未 詳計

一五 一〇 一二 一八 三九 三四二

○郡立萩圖書館 萩中學校構内に在り。建物は、瀧口吉良、菊屋剛十郎二氏の寄附に係り、創業費六千二百五十圓を要し、設備周到、好箇の圖書館あり。明治三十四年一月開館し、現今蔵むる所の和漢書二万五千五百五十四冊、洋書二千八百十五冊あり。

○萩八景 貞亨の頃、毛利吉就公、山田原欽、安部春貞、雲谷等播をして、萩城附近に於て、支那の瀟湘に倣ひ、勝景八ヶ所を撰ばしめ、八江と名けたり。倉江歸帆、玉江秋月、櫻江暮雪、小松江晚鍾、上津江晴風、中津江夜雨、下津江落雁、鶴江夕照即是あり。當時其各景につきて、原欽の詩、春貞の歌、等播の畫あり。倉江 萩西の濱の對岸にあり。鮎島相島その前に横り、雲濤渺茫、布帆出沒、風光畫くが如し。巨巖あり、鼻ぐりと云ふ。洞門空曠、怪奇驚くべし。蓋

萩 案 内

し八江第一の奇觀にして、冬間風荒れ、海鳴るに當ては、怒濤澎湃、何物をも碎かすんば、已まざるの概あり。

倉江 歸帆

山田 復軒

地極遠天三面開、水浸數島一帆回、倉 風怒潮生駭、疑是仙槎銀漢來、

玉江は山田村に屬する漁村にして、橋本川の下流にあり。月を以て著る。瓊浦橋はこゝに架り、觀音院の甍は、村後の丘陵に聳ひて、尤も畫趣あり

玉江 秋月

山縣 周南

一碧瑠璃凝不流、波光始白月盈樓、笙歌忽入西風起、人住廣寒宮裡秋、

玉江川洲の崎ひたす朝しほを飛ぶいを見れば秋立ちにけり 芳 樹

櫻江は椿郷西分村にあり。橋本川を隔て、萩町河添村に對す。戸洲遙に玉江橋を望み、相島夢の如く、其上に横る、雪景尤佳あり。

櫻江 暮雪

萩 案 内

面影の山の木からし聲絶えて、雪の花散る櫻江の里

宮原牧田

小松江は櫻江の東隣、大照院の附近をいふ。

小松江 晚鍾

山縣太華

古刹門前舊釣磯、細鱗巨口入秋肥。晚鍾俄駭幾人散、各自取筭南北歸。

上津江は、西分村霧口附近をいふ。曉霧深き處、舟筏現れ、尤奇觀あり。

上津江 晴嵐

安部春貞

山川の瀬々の朝霧絶えく／＼に江の浪見わた行く嵐かゝ

中津江は、東分村にあり。龍藏寺、六本松、大甲庵等、附近の地、みな有名あり。清流奔注、潭とあり、瀬とある。古來酒家之を取て、芳烈を醸せり。又中秋の頃香魚に名あり。

中津江 夜雨

勝間田澗翁

花にとひ月に仰けど中津江の庵の雨をさく人のあき

萩

案

内

季鷹不用蘆葦。客土秋風興未疎。簑笠去爲漁父伴。一年秋味到香魚。長三州下津江は、東分村にして、阿武川下流にあり。川を隔て、弘法寺に對す。

下津江 落雁

春 貞

有明の入江の蘆のほのほのとあくる空より落つる雁がね

鶴江は、萩町の東北に横る臺地のある所にして、阿武川河口に濱す。全臺玄武岩を以て成る懸崖に巨松あり。灯を吊して、通航に便にす。河口は、冬間風浪の爲め、一夜にして閉塞し、雨期に至れば、復た一日にして開通す。此邊恰も要津に當り、漁舟商船の出入引も切らず。夕景尤麗觀あり。

鶴臺 春望

澁 鶴 臺

壯士三春眼。乾坤睥睨開。孤城連大海。落日倚高臺。積水蒼江濤。浮雪玄菟來。雄風吹不盡。意氣醉芳醪。

○大照院 椿卿西分村櫻江にあり。南禪寺派臨濟の巨刹たり。明曆二年、

萩 案 内

秀就公の卒域と定め。爾來毛利氏累代の菩提所とある。堂宇壯巨、毛利綱廣、吉廣、宗廣、治親、齊熙、齊廣の諸公及び殉死者七人の墓あり。一たび山門に入れば、森嚴の氣人に迫る嶽の觀音は、寺後の山上にあり。眺望快適、國寶赤童子立像を藏む

松間一路曲如蛇、行到梵樓日已斜、稚子倚欄相指點、巨橋西畔是我家 高嶋醉著

○茶臼山 同村大谷嶮の南に聳えたり。大内氏の臣、岩成豊後守の據りし所、當時、尼子の臣、松倉伊賀守と、陣ヶ原に合戦せりといふ。陣ヶ原は、同村沖原にあり

○金谷神社 同村椿町の南端(維新頃まで大城戸あり)にあり。文治二年、長門守護、佐々木高綱、築前太宰府より、勸請せし所といひ。殿堂壯麗也。毎年舊曆十月十五日、十六日を祭日とす。神輿牛車の神幸、大名行列、及び、各の町踊車等、絢爛宏偉、群集織るが如し。萩地二大祭禮の一あり。

萩 案 内

○椿八幡宮 同村椿山麓にあり。應神天皇、仲哀天皇、及神后功皇を祀り縣社にして、萩郭外の總鎮守たり傳に云、後嵯峨天皇御宇、仁治四年、佐々木高綱長門の守護として、鶴ヶ岡八幡宮より分祀せしものありと、堂宇蒼古、神威嚴あり。

椿てふ里の名こそは嬉しけれ八千代と祈る我君のため 牧 田

○涙松 同村大谷と千法師との間にある、路傍の古松あり。左に宍戸眞徴の文を抄録す

芳宜の城下を、南の方へ出入する郊外に、年ふる松たてり。そを涙松とあむいふ。他邦に旅だつ人は、この松を見かへりて悲み、他邦より年月へて歸り來る人は、この松を見つけて嬉しむ。嬉しきにも、悲しきにも、この松によりて、涙くまるくをとりて、名によべるなりけり。

涙松のもとにて 吉田 松陰

歸らしとおもひまためし旅なればひとしほぬるゝ涙松かな

○頁切地藏 同村大谷より鹿脊坂に至る間にあり。舊藩時代の刑場なり無縁の爲め、石地藏を立つ。

○南明寺 同村南明寺山にあり。俗に竹田蕃匠の修造と傳へ、萩地唯一の天臺宗にして、大同年間の草創なり。國寶、木造 聖觀音、千手觀音の二體、及大内家明應永正時代の制札を藏む。眺望絶佳、庭前に彼岸櫻あり。寛永の比、手習文句に「南明寺の絲櫻」とあり。巨幹亭々、花時登臨の觀に富む。(俗間乳に乏しき婦人祈念を凝し、觀音堂の水樋を浚ふれば、乳汁自ら湧出づと云ふ。)

日輪山垂絲櫻

内藤昌益

櫻花一樹倚琳宮。晨々垂絲瑞靄中。幹接白毫迎佛日。條追黃蝶靡春風。成蹊同賞緇興素。老境應觀色即空。縱向人間示榮悴。餘猶自播無窮。

○龍藏寺 椿郷東分村、中津江にあり。臨濟宗にして、八江第一の古刹たり。

萩 案 内

同寺縁起に云(聖武帝大佛殿草創の時、諸國に令して、車牛を出さしむ。長門白牛を賞す。肥壯にして多力、能く巨材を牽く、蓋し編民國守の牧ふ所なり。大殿土木功畢々や、帝其像を彫り、堂を作りて之を安じ。國守に賜ふに雜料を以てし、牛をして復た田疇に勞せざらしむ。白牛やがて斃るや、國守その埋骨の地に一堂を創す。帝白牛山龍藏寺の榜額を賜ふ。乃ち堀田を改めて、牛敷の庄と稱す。平城帝の御宇、先基を恢弘し、新院を營造す。爾後荒廢、應安年中、眞悟禪師再興して、禪に改む云々。境内に牛舎あり。附近白牛を産する毎に、遞次其舎に納め、以て天年を終へしむ

島地雨田

窃影翻々古渡頭。平沙淺水適清遊。塵緣不到松林裡。古刹千年飼白牛。

○松陰神社 維新革命の先覺、吉田松陰先生を祀る。同村舊松下村塾の側にあり。明治四十年、縣社に列せらる。遺愛の硯を以て神靈とす。その肖像

は、門人松浦無窮の描く所。松陰自贊あり。その贊に曰く。

三分出慮写、諸葛已矣夫、一身入洛写、賈彪安在哉、心師其高写、而無素立名、志仰魯連写、遂乏釋難才、讀書無功写、樸學三十年、滅賊失計写、猛氣廿一回、人譏狂頑写、鄉黨衆不容、身許家國写、死生吾久齊、至誠不動写、自古未之有、人宜立志写、聖賢敢追隨。

社側の米善臺は、先生門人とこれに立ち、米を搗きつゝ讀書せしものあり。松下村塾は松陰先生が、安政三年七月より、同五年十二月入獄の時まで、こゝに親しく子弟を教授せし處にて、其間僅に二ヶ年半に過ぎず。初め八疊の小屋を以てし、間もなく、狹隘を告げれば、更に十疊半を増築す。此時門人等、その長所に従ひて、勞役に従事し、棟梁構築より塗壁葺屋に至るまで。悉く其の手よ成れりとす。斯くて、明治維新の鴻業は斯る陋屋にて、陶箴せられたる幾多俊豪の手に成就せしかりけり。

松下村塾作

伊藤春畝

道德文章叙彝倫。精忠大節感明神。如今廊廟棟梁器。多是松門受教人

○東光寺 岡村馬鞍峯下に在り。黄檗萬福寺派の禪林にして、七堂伽藍悉く備り、結構壯麗の名刹ありしに、維新後甚たしく荒廢し、本堂、方丈、山門、看門、等を残すのみ。大照院と共に毛利氏歴代の菩提所にして、吉就、吉元、重就、齊房、齊元の諸公の墓あり。又甲子殉難士の墓碑あり。毎年四月八日、遺族相會して、法會を行へり

岡湖村

往事茫茫去似雲。殉難尙尙見遺勳。當年諸士多知己。淚洒東山十六墳

○長添山 同村の西北、新川を隔て、鶴江臺と對する小山にして、展望頗佳あり。干城隊、第一大隊、第四大隊の招魂社あり。

○姥倉堀削 同村鶴江臺と長添山との間をいふ。もと連続せしものなり

萩

藩主敬親公、阿武川の汎濫を憂ひ、開きて之を小畑浦に通じ、舟利を便にす。其工事嘉永六年春より、安政二年夏迄四歳を経て成る。全長四百十九間、幅十五間、役夫凡三十二萬、船、六千餘艘を要せり。河側にその事を記せる石碑あり。兵戸璣の撰文あり。

小幡餅山

新渠工就各安生。人説先公博愛情。日暖風微春水綠。舟傍垂柳岸邊行。

内案

○二孝子墓碑 墓は、同村前小畑舊墓地にあり。碑は、鶴江臺の南側に在りて、山縣太華の撰文あり。二孝子は香川津の人、兄を權藏、弟を利吉といふ。父母に事へて孝、繼母子を生みて病み、藥石効なく、命旦夕に迫る。權藏利吉に謀て曰く、百計盡さぬ。神助を俟つの外あしと。乃ち食を斷ち、萩新堀金比羅神に祈ること七日。滿願の夕、二子沐浴裸跣、往て賽す。その夜、烈風飛雪、四枝石の如く、歸路家に及ばざること數十歩にして斃る。實に文

化十二年十二月十一日あり。權藏時に年二十二利吉十六。藩主其の孝烈を憫み、厚く之を恤せらるると云ふ。

澤 春 川

香川津ある二孝子が事をききて感泣の餘にはらからの屍を雪に埋みてを埋れぬ名は世に残りける

案

越ヶ濱 萩菊ヶ濱の對岸、笠山半島に連る漁村なり。今椿郷東分村に屬す。南に夕洲、北に好泣の良港を控へ、風光愛すべし。巖島神社は笠山の麓にあり。祠前に鱈池あり、幽靜閑雅、鮮鱗踊り出づ。祠後に風穴あり。夏時尚ほ肌粟を生ず。

萩

○笠山 越ヶ濱の西に在る死火山にて、圓錐狀を成せり。熔岩磊々地質研究上多大の價值あり。

○笠市場 萩町濱崎洲口にある一大市場あり。沿海漁民日々此に集り、魚類を競賣す。鮮魚潑刺商賣喧器、殆ど名狀すべからず。現時合資會社とす。

販路は大坂、を最とし、岡山、廣島、東京等之に次ぐ。年額優に十五六萬圓に達すと云ふ。

内 案 萩

○住吉神社 濱崎町に在り。承應中、舟人祈りて、播州灘に危難を免れしに
より。泉州堺住吉社より勧請せしものなり。初め鶴江に創建し、萬治元年、今
の地に移す。殿宇宏壯、祭禮は舊六月廿七日、廿八日を以てし、市中毎年二ヶ
町宛、夜見世と稱して、盛宴を張り、裝飾善美、絢爛眼を奪ふ。社内は觀場を
以て充され、熱鬧鼎の沸くが如し。其他『御船』の優美にして、船唄の古奇あ
る、何れも珍とすに足る。萩地二大祭の一あり。

○弘法寺 萩土原村字浮島にあり。寄船山彌勒院と號し、大同年間、弘法大
の創建にあると云ふ。傳に云、空海歸朝の砌、風浪を避けて、此島に寄れり
と、境内古松錯落、風趣拘すべし。鵜泉あり、河中に湧く。近時浴場を設けて、
療養に資せり。神社浮島辨財天あり。祠後の小丘には舊藩振武隊の墓碑あり

り。碑文は、長茨の撰なり。境内又前原一誠、佐世一清等の墓あり。芳草香煙、
當年を偲ぶに堪へたり。

○常念寺 淨土宗の巨刹にして。萩町今古萩にあり。天文年間、阿部藤兵
衛の開基とす。慶長中、輝元公入國の際當寺に淹留せられ、ために寺領三十
石を給せらる。寺門は、京都聚樂亭の裏門ありのを移し、ものにて、鳴居に
獅子あり。飛彈の工匠の作ありといふ。

○本願寺別院 一向宗の大伽藍にして、萩西田町に在り。輝元公室清光院
殿の本願にて、初め、山口に創立し、元和年中、今の地に移し、清光寺といへ
り。規模雄大、輪輿宏麗、萩第一の巨刹たり。維新後、本願寺別院とある。其の
本門は、即ち舊明倫館の正門ありしあり。明治九年、前原一誠の亂に際し
首魁以下、此に拘せられ、後皆を刑に處せられぬ。

○明倫館址 萩町の中央江向村にあり。明倫館は、享保三年、毛利吉元公
堀内に創建せられしが、弘化三年ここに再建、嘉永二年落成す。館は南面に

内 案 萩

萩 案 内

て、東西百三十四間、南北百三十二間、總敷地一万五千八百八十四坪あり。中央は聖廟にして、西を講堂とし、東を演武場とす。是れ現時、小學校の在る所あり。背後は馬塚を隔て、練兵場あり。今の區裁判所、町役場等、之に當れり。當時の建物としては、東側の一棟を存す。用水池、石碑、(一は山縣周南撰文、一は山縣大華撰文)及老松の鬱蒼たる、亦た當年の跡を見るべし。而して、其聖廟は今北古萩町の海潮寺の本堂とされり。明治九年の變、前原一誠等、此に會して舉兵を謀りしが、頓て兵燹に罹れり。

○阿武郡役所 萩町江向村にあり。本郡治政の主宰地にして、廳舎、議事堂みか宏壯あり。郡長は口羽良介、氏家偵介、長野範助、大田瀧熊、加藤正典氏を経て、現任藤富氏に至れり。

○好生館 萩新堀にあり。往事八丁御殿の東にありて、嘉永年間の創建に係り、醫家養成の學館たり。現今醫師集會の場に充つ。

萩 案 内 終

フ 寫 眞 館

萩東田町新堀

館主 中村 令延

萩東田町角

荷物運送業 日の出組運送店

海陸共に丁寧迅速且つ賃錢大廉價の
取扱は遠く他店の及ばざる所なり

萩東田町

株式會社 防長貯蓄銀行

(振替貯金口座大阪一五八七)

産名萩

品上買御省内宮

| | | | |
|---|---|---|---|
| 橙 | 蓮 | 黄 | 老 |
| 羊 | 根 | 金 | 松 |
| 羹 | 羊 | 薰 | 飴 |
| | 羹 | | |

町田東萩門長

堂松老田原

吳服和洋反物卸小賣商

并ニイン、ミン、コート、トンビ、アツシ

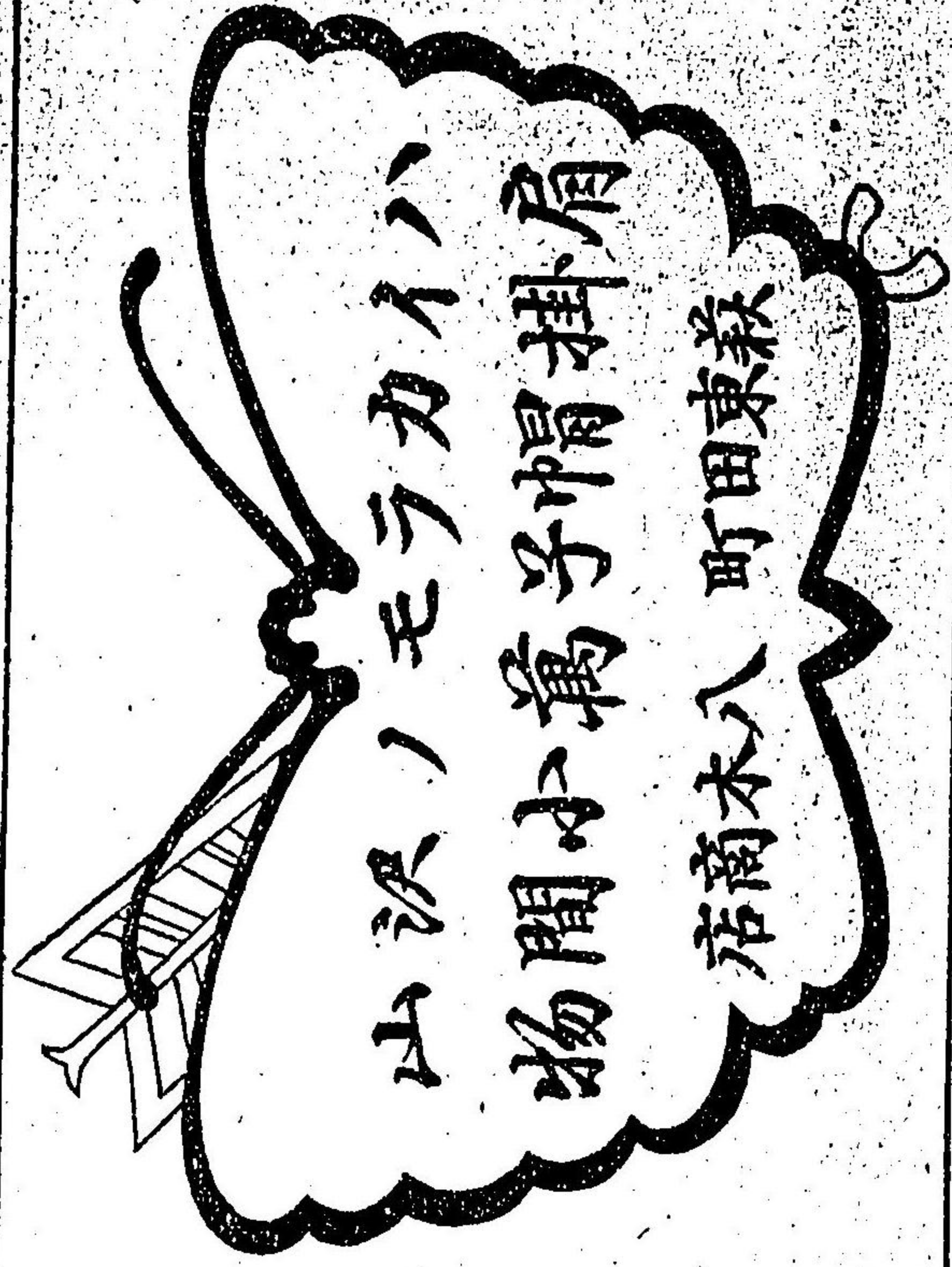
祝儀小袖物一切

長州萩東田町



たわらや吳服店

(電話三六番)



八力力毛ノハ
肩掛子萬小間物

款東田町 八木商店

船來雜貨
銃砲火藥

商 佐伯屋商店

款東田町

(萩郵便局向ヒ)

營業種目

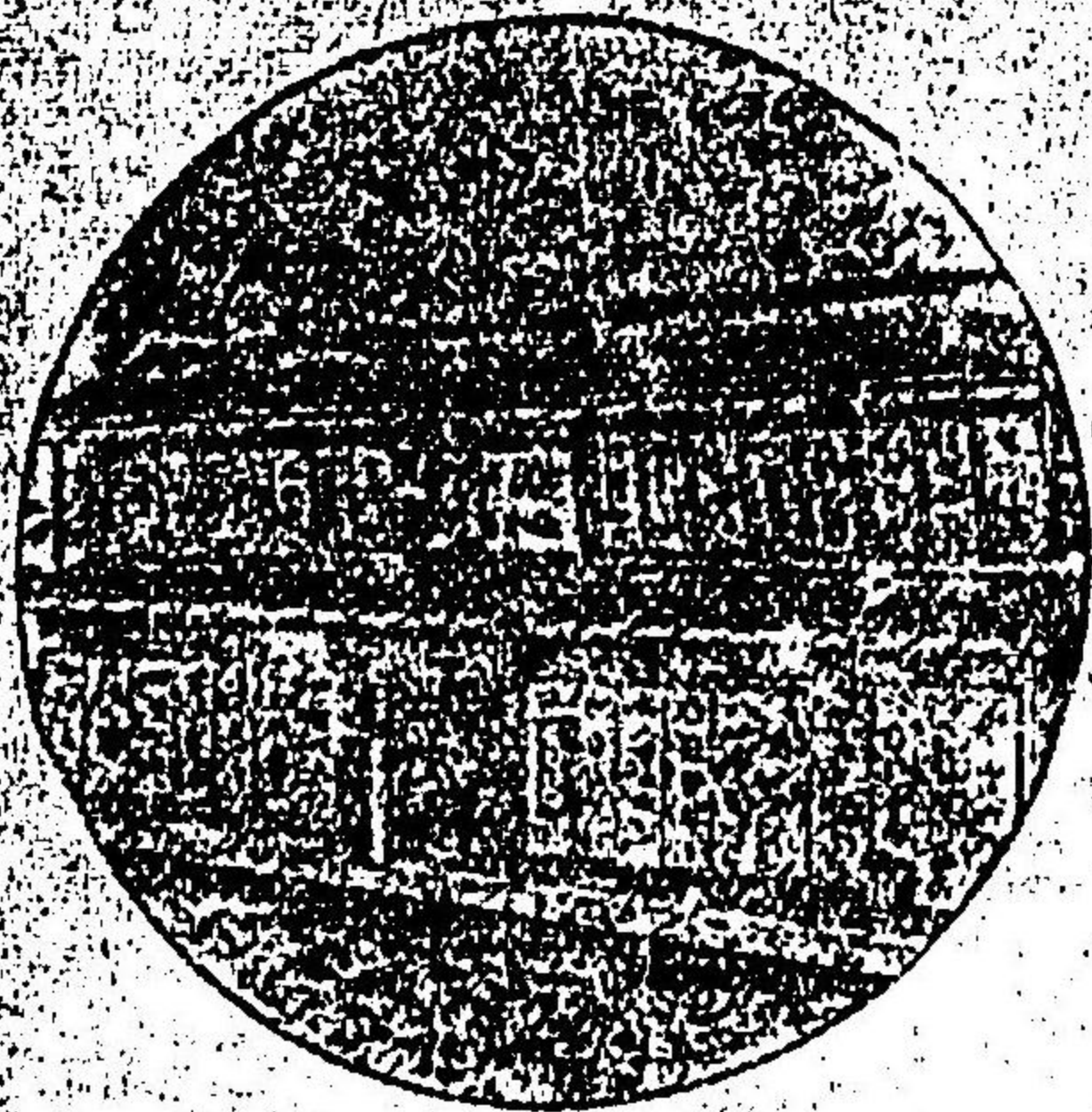
帽子 洋傘
毛布 膝掛
レィス 肩掛
ソリヤス 類
婦人小間物
有名化粧品
袋物各種
高貴足袋卸

とき品と安くうります

ぜひ御立寄の程待入候

柳井屋商店

萩東田町郵便局前



かんでももある

くすりや

柏木薬舗

萩東田町

電話 五十六番
振替 大阪一五八八番

印
附
第一品
堂四凸垣板
町田東萩

阿武郡酒類品評會ニ於テ第一等賞受領
各博覽會共進會ニ於テ有功賞狀受領

清酒

福娘

山口縣萩町大字東田町

釀造元 岩崎小左衛門

書籍樂器文具

其他諸學校用品類

萩町新地圖

發行

萩名所繪はがき各種

萩東田町郵便局前

書肆

白銀日新堂

振替口座大坂三七九三番

本店岩國新町

支店

- 山口中市
- 山口湯田町
- 萩東田町
- 下の關唐戸町

學枝用品

圖書雜誌

樂器運動具

筆墨硯

小間紙るい

紀念繪はがき發賣

萩東田町

今岡田信盛堂

確實勉強

商標 (W) 標

長州萩名産

SUMMER ORANGE
THE BEST
SWEET MEATS EATEN
WITH TEA.

菓子 萩乃薫 茶用

製造者 小島林次郎
大日本山口縣萩市
製造元 元資

MANUFACTURED BY
C. KOBAYASHI.
HAGI, CHOSHU.
JAPAN.



株式會社

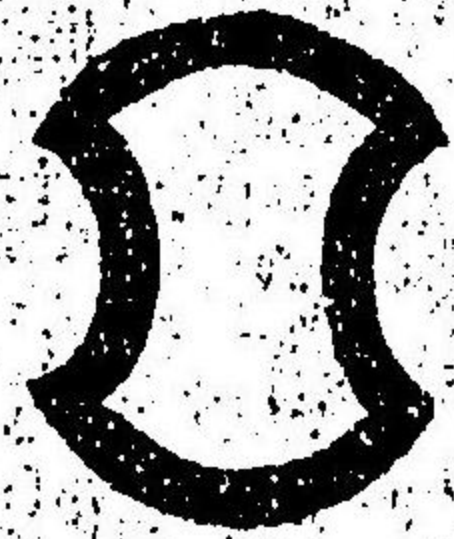
百十銀行

萩出張所

萩東田町

雜貨下り角

創立明治十一年十一月
拂込濟資本金六拾萬圓
積立金貳拾四萬五千圓
諸預り金五百貳拾八萬貳千圓
(明治四十二年二月末日現在)



株式會社

萩銀行

○創立明治三十年三月

○資本金拾萬圓

大津郡仙崎

仙崎支店

阿武郡須佐

須佐出張店

大津郡古市

古市出張店

阿武郡萩濱崎町

濱崎出張店

大津郡渡場

渡場出張店

厚 司
コ イ ト
ー シ ン
ト

應 好 御 外 其

事 屋 錢

店 服 洋 重 國

町 田 東 萩

正

薄

吳 服

とらのや商店

太 物

札

利

町 田 東 萩

確実効強正礼附



營業品種目

和洋雜貨 ▲ 洋傘 ▲ 帽子 ▲ イン
 ベネーニス ▲ 婦人コート ▲ 厚司
 ▲ 外套類 ▲ 毛布 ▲ 肩掛 ▲ ソリ
 ヤス類 ▲ 洋鉄 ▲ 鋼 ▲ 洋釘 ▲ 金
 物類 ▲ コリ印葡萄酒 サイダ
 特約店 ▲

たなじみの

萩東田町

③

三原商店

電話七三番
電信器号ミハ

最も斬新奇抜なる精良品を
 最も廉價にて貴需に應じらるは
 弊店の特色とする處に御座候

長門萩東田町

①

萩吳服株式會社本店

東田町支店
 橋本町支店

上田陶器卸店

萩西田町

四十二年式

新柄荷揃

萩西田町

つるや新店

木綿太物 并ニチール類

足袋 シヤツ類

卸小賣

萩西田町

第二京屋商店

外仕立物一切

家傳
御びん附製造

かみ油き油るい
日本石油特約販賣
並ニ化粧品卸小賣

萩東田町

若

若松屋本店

萩濱崎町吹上

若

若松屋支店

嫁入衣裳

八代屋商店

萩西田町

萩案内

紀念繪

はがき

乾物
青物

商

漬物 罐詰類

萩西田町

前田商店

文房具

造花原料

手工用具

一切

萩明倫高等小學校隣

山田明倫堂

信用を一億圓の

資本よりまざる

小原呉服店は安く買ふて 安く賣り飛ばさ

誠意 呉服 正札屋

小原呉服店

確實

太物

ハギ別院前

高等洋服裁縫

歐米最新新形御調製
洋服附属品販賣

萩西田町

河村商店

自轉車

時計

蓄音機

電鈴類

カーバイド

瓦斯器具一切

瓦斯ランプ架設ノ求メニ應ズ

確實勉強

三好商店

萩西田町

電話番号三九番

驚く家かれ

資本金毛厘もなし

唯だ資本に優る

信用ある而已

新古美術品
書畫骨董類

萩米屋町

灘波春日堂

山關精選
牛鶏肉販賣所

博養舎

萩上五間町

西村事

宮内省御買上ケノ榮ヲ賜フ

萩名産

夏密柑製菓

八江ノ薫
長州飴
シヤム
袖の香
橙羊羹
カステール

長門萩瓦町南角

元祖製造元 吉村風月堂

電話番付三十四番
電信號碼ヨフ

東宮殿下御買上の榮を賜ふ

内案萩

| | |
|---|---|
| 保田持輕二 植田便重 米用式火瓶 定巴起消 袋規電器器 | 椅子理造手學和 化學花工校洋 ア器械用用房卸 ブル品品品具商 |
|---|---|

長門萩瓦町

住永治郎吉商店

電話番号七拾壹番

全町

住永活版所

第四回阿武郡酒類品評會

一等賞受領

酒清 四季の友

萩瓦町

柳井酒場

洋服裁縫

- ▲文武諸官制規御服
- ▲各學校制規御服
- ▲紳士流行新形
- ▲服裝用附屬品類

竹原洋服店

萩西田町

祝共進會

防長街燈店

萩支社

町田政吉

萩西田町

祝共進會

仙崎幸町

町田街燈店

内外圖書雜誌

小學校中學校教科用書

特約販賣

教育用樂器

理化學機械

博物標品藥品

學校用品文房具

陸地測量部地圖

先春園銘茶

運動及体操用具

手工用器具及材料

机テール本箱

諸流謠曲本

義太夫淨るり本

萩名勝舊跡繪葉書

萩西田町

阿武郡全圖

萩町市街圖

發行所

含英書院

藤川東輔

萬小間物卸商

萩瓦町

正

とばや本店

話電拾貳番

履物花緒卸商

萩瓦町

正

とばや支店

萩上五間町

和洋卽席御料理 美志滿亭

并ニ御仕出所

萩町新堀

玉木醫院

醫學得業士 玉木丞輔
醫學得業士 小山輔以智
藥劑士 沙武助
事務員 竹田紹且

病室ノ設備アリ隨時入院ヲ諾ス

歐米自轉車

蓄音器

萩米屋町下り

美術エナメル塗 竹原商店

ニッケルメッキ

美術京染

萩熊谷町堺町角より二目

紀

中村治三郎

吳服悉皆

京都出張所

萬乾物罐詰類

萩濱崎本町東側

井青物卸小賣

吉賀正七

たんせきに妙薬さふりひん。血の道。子宮

さし薬

三隅明峰寺硝子飴取次

各博覽會ニ於テ有功賞ヲ領ス
持産

萩の譽

萩濱崎町吹上

菓子
砂糖

卸商 久繼商店

萩濱崎町吹上

麻苧并ニ漁糸類 音好商店

製造販賣商

長門萩濱崎町

醬油製造

卸商 倉田中專介

酒類仲買

内外メリケン粉

水飴菓子掛物并ニ

菓子原料品卸販賣所

萩濱崎町

ヲ 岡徳商店

諸油蠟燭鬚附

山口縣萩濱崎町

製造販賣人

林彌三郎

并ニ精米所

書畫骨董

煎茶器

古道具商

萩濱崎町

汲古堂有馬倉吉

萩濱崎新町

桐下駄製造元 萬谷治三郎

井卸販賣所

美術染物悉皆

並ニ染地手拭商

萩町渡ノ口 岩川

誠意確實ニ御調上可申候

間何卒御注文ノ程

伏シテ奉希候

頓首

蒲鉾製造元 石光新作

山口縣萩町濱崎新町

卸販賣并ニ

鮮魚内外輸出處

御注文ヲ乞フ

萩濱崎新町

桐臺製造

藤道藤太郎

井拉下駄花緒卸商

鹽元賣捌所

回生酢疊表類
木炭材木專業

物品問屋

長嶺六三郎

萩濱崎町雁島橋通

▲當會社取扱の大坂商船會社當航路の漁船は就
れも船体堅固にして客室美麗なり且つ快速力
にして乗心地よし船便は上り下り共大抵毎日
あり

▲當會社取扱親御丁寧を旨とし諸般の設備
完備なり

大阪 下 船

萩漁船株式會社

旅

館

刀

糲

セ

キ

萩濱崎橋筋

吉村屋事

備 具 備 具 備 具

漁具船具萬金物
麻芋荒物

并獅大敷網製造販賣

長門萩港

鳴島屋文店

山口縣萩港

企廣本店

材木沼根萩雁島

其隆三砂灣

廣支店

(電話 七二)

大連市越後町

廣支店

(電話 八七七)

材木販賣

清韓臺灣

輸出業

諸物品問屋

鮮鹽干魚內外輸出

并蒲鉾製造元

卸販賣所

長州萩濱崎新町

可渡邊商店

萩濱崎新町

桐下駄製造卸專業 今岡村秀藏

并塗下駄類

鼻緒表類

粒下駄

其他色色卸業

其 餘 尚 有 諸 君
萩 濱 崎 町
桐下駄製造元

萩濱崎町

并二卸專業

三浦信藏

鮮魚
諸貨物

長州萩濱崎町

運送店
中村福次郎

電信界号(十九)

魚問屋
海產物
仲買商

長州萩濱崎町
大井屋事

松浦八十松

煙草販賣

萩名産

岩あふこ

龜甲せんべい

製造元

旗見龜作

萩御許町

萩案内

紀念

繪はかき

精舊式
選醬油製造元

萩御許町

平島第一醸造場

萩十日市

平島第貳醸造場

鹽元賣捌人

平島伊之助

川上染色工場
京都染色取次部

長門萩御許町

川上屋

傘製造元

萬傘蠟燭製造元

卸

萩橋本町

安全火止愛國石油

商

末永商店

栗田式特許口金

實用
特許

末永式（カンテラ）

白熱油煙止製造所

美術諸看板調進所

村山錦玉堂

長州萩御許町

祝共進會



(本店) 山口縣山口湯田町

(電話第七七番)
(電略オノ)

長門國萩御許町

小野屋萩支店

(電略ハオ)

(支店) 出雲國今市木町

(電略シオ)

和洋

御料理

萩唐樋町

高大亭

大阪屋事

御旅館

高大支店

萩唐樋町

疊表販賣所

中村善次郎

萩御許町六〇八番

旅館 吉山眞作

萩上五間町

萩熊谷町筋角

吳服太物 鳴屋商店

内外総糸

并ニ染糸商

書畫骨董 商

煎抹茶器

森玉堂 池田常吉

電話七十五番

滑金銀確實賣買

直誠寶確

具道術美今古

切一品飾裝內室

堂雅清本坂

町谷熊款

御嫁入道具
佛擅佛具類

并ニ漆器類

萩熊谷町

品川庄藏商店

金物商

萩熊谷町

并

度量衡販賣所

上田久藏商店

陶磁器商

長州萩熊谷町

盃印入所

中村政智店

ニ
ム
印

スタンフインキ附屬品

印材各種

高等朱肉販賣

萩熊谷町

山本彫刻處

萩案内

共進會紀念

はかさ

特色

●●●●●●

味宜ク調理ニ適ス

價格低廉



印最上醬油

元造釀

特色

●●●●●●

夏季數十日ヲ經ル

もかびが出ぬ

萩椿町大橋角

合名
會社
高山商會

醬油部

電話番號五五番
電信番號タヤ

清酒 千代の友

別製 八重霞

萩橋本町

釀造元増山商店

和洋

萩橋本町

小間物商店 宗樂商店

雜貨

確實勉強

優等日本酒

別製
白露

銘酒
富士の友

釀造元

萩椿町大橋角

合名
會社
高山商會

電話番號五五番
電信器號タヤ

別製
銘酒
鶴壽
玉川

長門萩玉江

釀造元
前田久八

ワシントン、チーブル、オレンジ

果實 一年生ヨリ

苗木 八年生マデ

杉苗木

一年生ヨリ
三年生マデ

長門萩玉江

千戸園主 前田久八

精々勉強販賣仕候間多少ニ拘ラス御用命ノ程奉願候

醬油釀造販賣業

中谷商店

萩椿町

日本肥料阿武郡一手販賣
石油種油各種肥料販賣

醬油釀造 大津商店

萩椿町

和洋

御料理 富月亭

萩橋本町

(電話番號二六番)

諸藥品販賣

商號

諸賣藥

山口屋事

處方箋調劑

藥劑師

神授龍王湯元舖

行本善次郎

萩橋本町

確實勉強

諸油木蠟

卷掛蠟燭製造元

原真蠟燭

紙類筆墨外雜品

米國紐育(メソグ)下右油會社

特約店 伊佐猪三郎

萩橋本町

多才

斯界改良魁
品質堅牢
体裁優美
肌膚心地良
贈答適品

萩
合落
活中
場工

良精質品

目種業營

和洋雜貨
學校用品
化粧品類
諸金物類
はき物卸

廉低格價

萩橋本町

合山中三古

電話三七番
電界ヤマ三又ハ三

強勉實確

阿武郡酒類品評會一等賞受領
第九回關西聯合共進會褒賞受領

清酒

翁草

釀造元萩唐樋町

洋酒瓶詰發賣 大黒屋酒場

日新堂

佐々木時計店

長州萩唐樋町

寫

弊館の特色

創業最古

意匠斬新

技術精巧

期日精確

荻唐

村田寫眞館

樋町

眞

名産

蒲鉾製造卸販賣所

其他御祝儀御土産細工蒲鉾等ハ何時モ御注文ニ應ズベク候

長州萩濱崎魚市場前

宮野三四郎商店

電器ミヤノ又ハ三

諸物品問屋

鮮鹽干魚内外輸出

并三蒲銚製造元

卸販賣所

長州萩濱崎新町

可渡邊商店

最補血強壯劑
完全補血
るあ全完も最

スキエトルー鉄

一合鉄名



醫學博士 山根正次先生授法

其他なんでもあらくさりや

發賣元

山口縣萩新堀

九るや事

上田藥館

萩名産

東宮殿下御買上品

夏夏 萩長カ橙

のシの 橙

の州皮

ヤ

月飴ヲ羹と薫

内各外博覽會

有功金銀賞牌受領

長門萩米屋町

光國松月堂

萬小間物化粧品
萩紅製造本舖

大強勉安賣卸小賣

山口縣萩五町天神筋角

永 永安長左衛門

諸器
製作
製圖
設計
設備
修飾
鍍金
工金
塗金

許特案新 九三川二一第
許特賣專 八一二六一第

傳 票 挾
自 在 鈎
氷 囊 鈎

町谷熊萩縣口山
行商菱ス工本坂

砂糖メリケン粉

并ニ菓子洋酒罐詰

化粧品 其外色々

卸小賣商

萩土厚馬場ノ丁角

中村鶴藏店

正種油製造

鹽元賣捌

陶磁器卸

硫曹乃紀念肥料

歐米北海魚肥

山口縣萩町土原

白石商店

電器(シカ)

牛乳

消毒殺菌

確實保証

萩松本上野

林牧場

竹材
賣買
問屋

萩松本
厚東商店

御嫁入道具

并ニ漆器類

萩熊谷町筋

堺丁角エリ三家目

製造販賣

井町輔一商店

其他家具類

諸油類

河醬油卸商

髮香油

ライシングサン石油株式會社

船印



石油

指定販賣店

長州萩熊谷町

中谷長藏

藥種

萩熊谷町

岡勝三藥舖

賣藥

佛壇製造
佛具販賣

萩熊谷町

宮内佐吉

消毒殺菌
牛乳衛生

笠山牧場附屬

萩上野臺

國重搾乳所

明治四十二年十一月十三日
明治四十二年十一月廿五日

發行
印刷

著作

阿

山口縣長門阿武郡萩
無底町

發行

藤

山口縣東
全輔町

同

白

山口縣
全信夫町

同

岡

山口縣
全貞亮町

印刷

西

山口道場門前町
印刷所

印刷

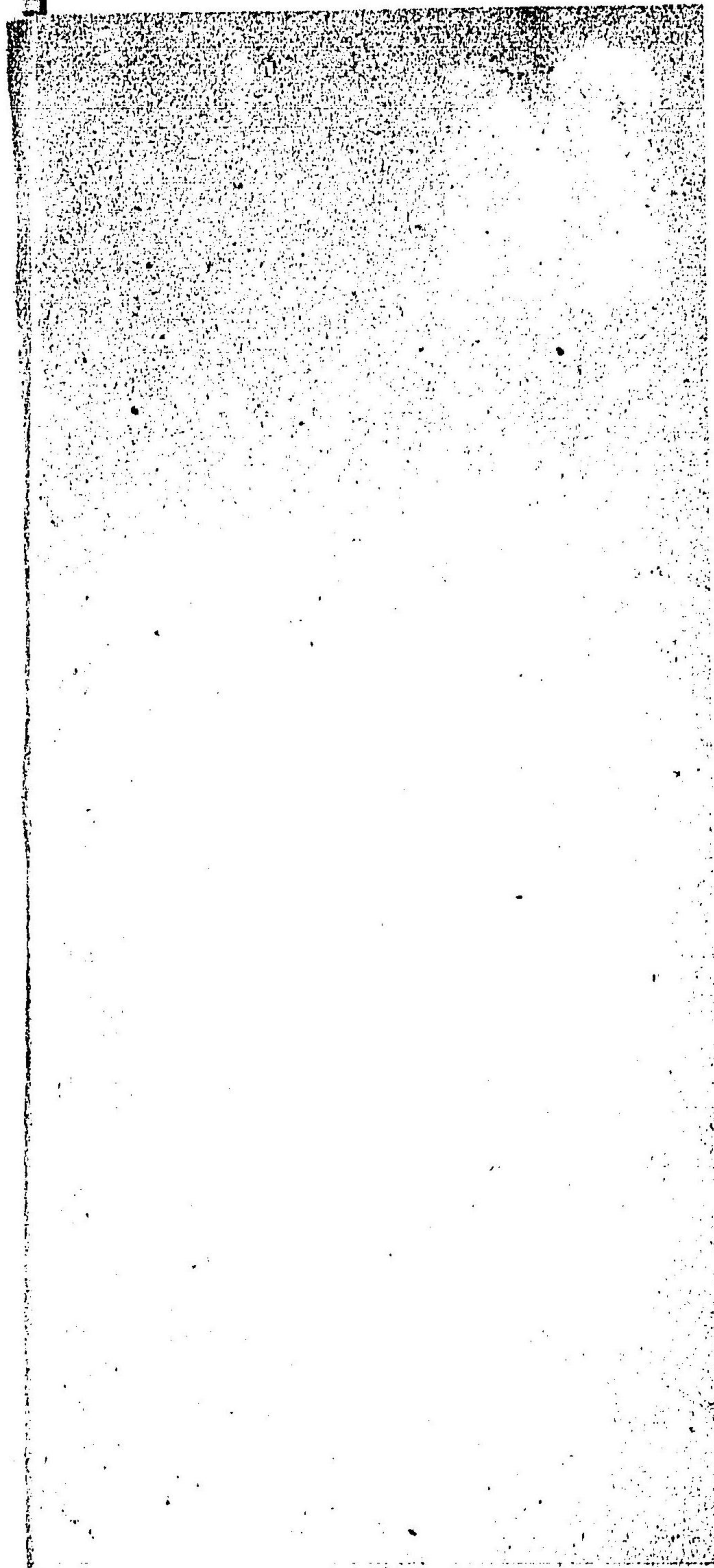
西

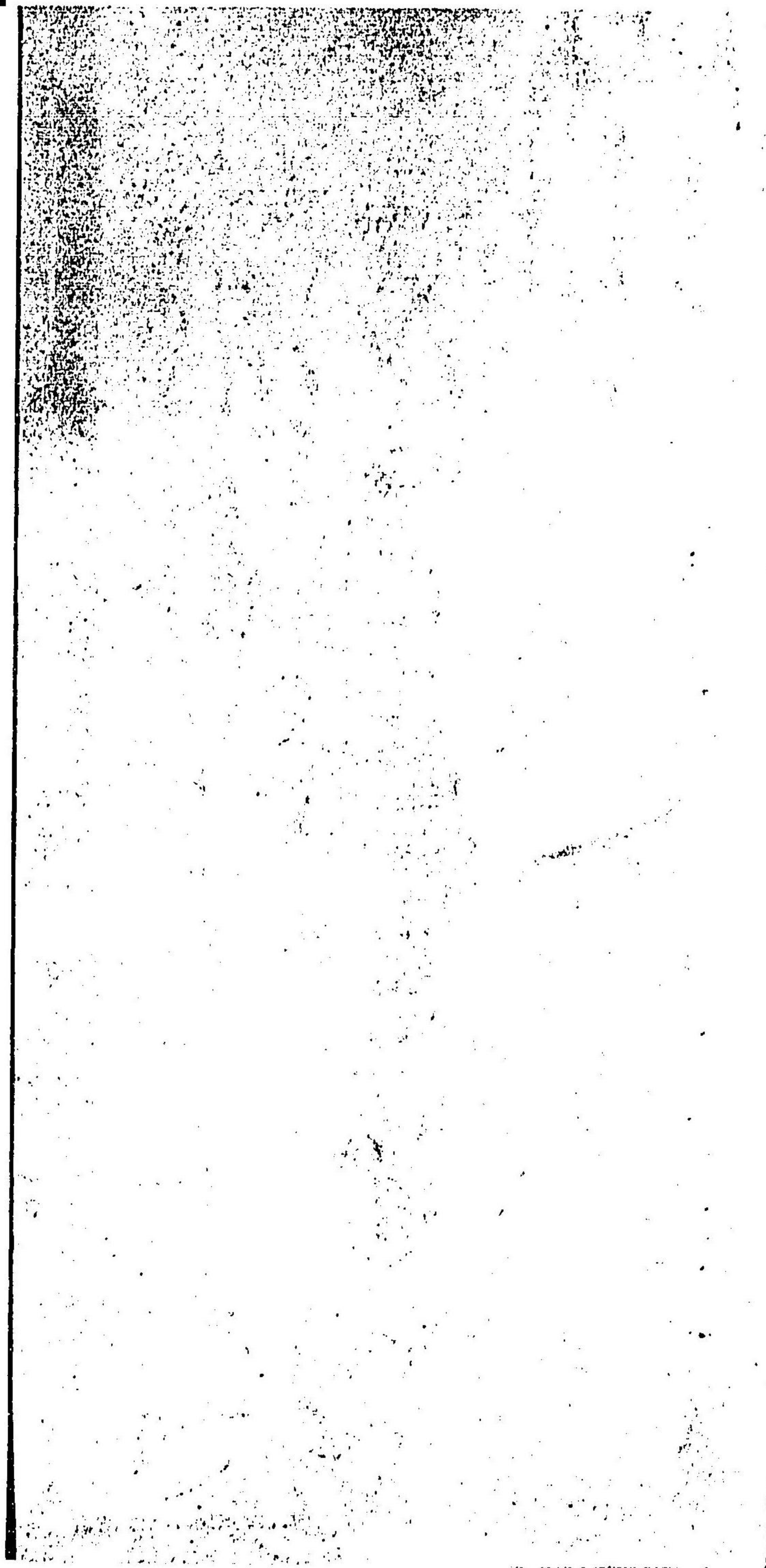
山口道場門前町
印刷所

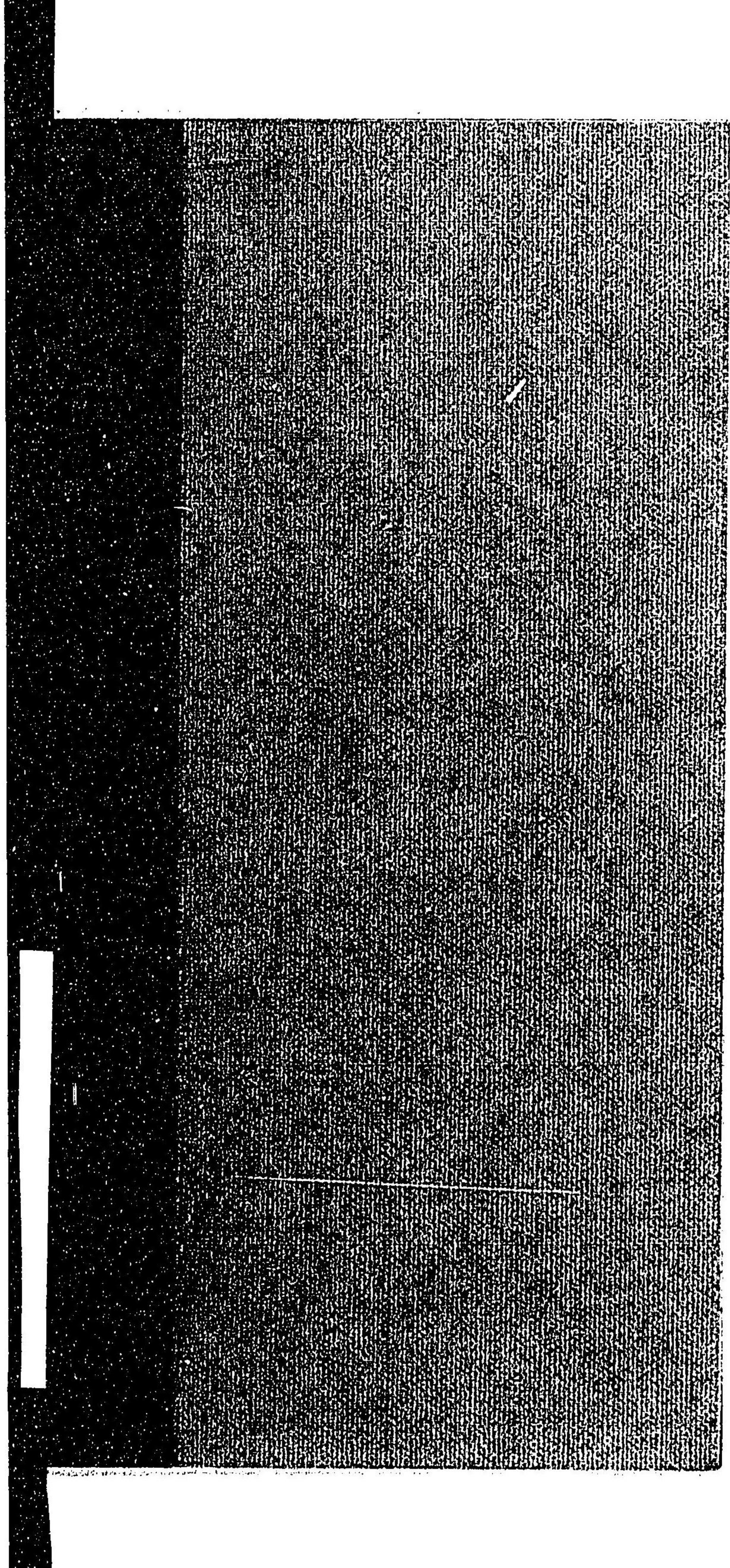
村孝太郎
山口道場門前町

定價銀二十錢

259
819







特20

711

萩案内

国立国会図書館

025939-000-3

特20-711

萩案内

阿部 無底/編

M42

ADC-3513

